



山では川底が見えるのに、下流では川底が見えないのはなぜ

山の川の水はすきとおっている

山に降った雨は、地面を流れたり、川の水になったりしますが、一部は地下にしみこんで地下水になります。

地下水は、ねん土や岩石の層があると、それ以上、しみこむことができません。地下水は地層のかたむきが、高い方から低い方へと流れます。地下水は、がけ下の地層が切れているような所から、きれいなわき水(泉)となってわき出て、川の流れのもとになったり流れている川の水と、いっしょになったりします。

山の川(上流)の水は、わき水が混ざっていたり、わき水がもとになっているので、とてもきれいで、すきとおっています。それに、水の量が少なく流れが速いので、土砂などはいつも流されてしまい、川底が見えるのです。

下流の川は川底が深く、水がにごっている

川は上流や中流から、土砂を運んできます。川が下流になると、川はばが広くなり、水の量も多く、川底も深くなっています。川底のかたむきがほとんどないので、水がゆっくりと流れ、土砂を積みらせるはたらきがさかんになり、川底には土砂が積もります。それに、川の水に土砂などが混ざっているため、ふつう、川の水がにごっています。

また、下流には人口の多い町や工場があり、生活排水や工業排水が川へ流れこみ、水がにごってしまいます。さらに下流では、植物性プランクトンなどが多く発生し、水がにごる原因になっています。(監修・国司 真)

